



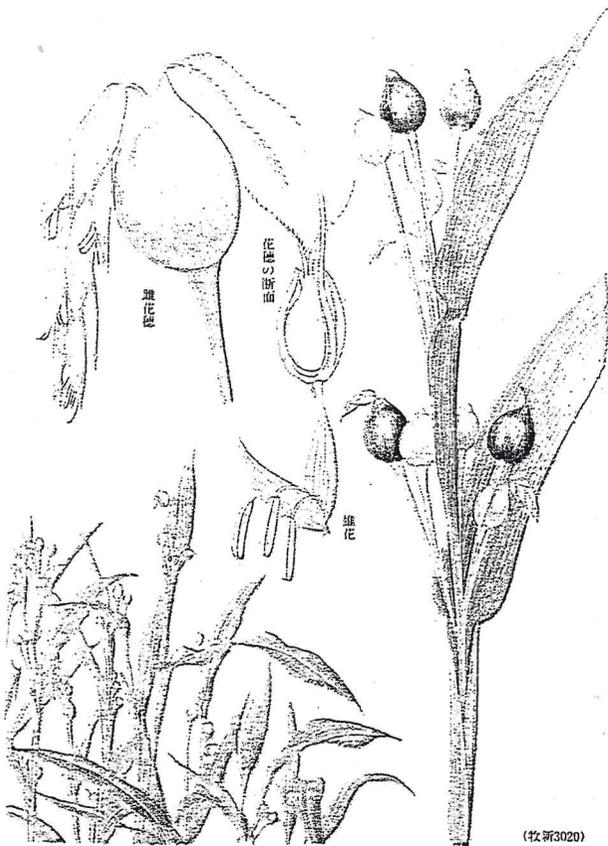
(抜新3021)

1117. ハ ト ム ギ (シコクムギ, トウムギ)
 [ジュズダマ属] (いね科)

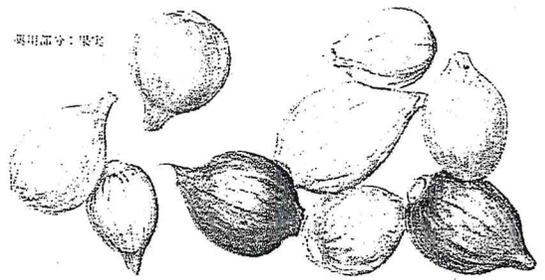
Coix lacryma-jobi L. var. *ma-yuen* (Roman)
 Stapf (= *C. ma-yuen* Roman) (鳩麦, 四国麦)

【分布】中国、東南アジア地方の原産で、日本には古くから渡来し、西南部の暖地で栽培される1年草。【形態】草丈1~1.5m。茎は直立し、剛直で節を生ずる。葉は互生し、細長い皮針形で幅約2.5cm、下部は太形の鞘になる。花期は8~10月。まき生の穂状花序に数個の花をつける。果実は長さ8~10mm、楕円形で茶褐色。穂先は扁卵形。【薬用部分】種子(意苡仁<コウイニン>⑥)。9~10月に果実を採集し、果皮と種皮を除いて日干しにする。【成分】種子にでん粉50%、タンパク質のグルタミン酸、ロイシン、チロシン、バ

リン、コイシン、脂肪油のバリン、ステアリン酸、リノール酸のほか、カンペステロール、スティグマステロール、抗腫瘍成分のコイキセノライドを含む。【薬効と薬理】意苡仁油はカエルに対して運動麻痺による呼吸停止をきたす。肺血管に対しては顕著な拡張作用があり、また血圧を低下させる。意苡仁油を皮下注射すると血糖量が低下する。またコイキセノライドはエルニツト腹水癌に対して増殖抑制作用を示し、延命効果が認められる。排膿、消炎、強壯、鎮痛薬としてはいは取り、浮腫、強壯に用いられる。【用法】浮腫、疼痛には意苡仁1日量10~30gに500mlの水を加え、半量になるまで煎じつめ3回に分けて服用するか、粉末を1日2~4g服用してもよい。【その他】意苡仁と類似の生薬にジュズダマ *C. lacryma-jobi* L. の果実を乾燥した川穀(ケンコク)があり、意苡仁と同様に使用される。



薬用部分：果実



1116. ジュズダマ (ジュズダマ属)
Coix lacryma-jobi L.
(いね科)

(数珠玉) (中) 薏苡

【分布】熱帯アジア原産の帰化植物で、各地の水辺などに生える多年草。【形態】茎は下部で分枝し、直立、太い。葉は細長い皮針形。花期は8-9月。上部の葉えきから長短不同の柄をもった穂状花序を数個束生する。花は単性で、雌性小穂は花序の基部につき、つぼ形をした硬質の苞鞘に包まれ、結実する1小花と、退化した2小花がある。雄性小穂は、雌性花のある苞鞘を貫いて超出する短い柄の先に総状につき2-3個ずつ集まり2小花がある。花序は垂れさがらない。果実が成熟するにつれて苞鞘は骨質化が進み、色も変化して、かたいいわゆる数珠玉となる。【薬用部分】苞鞘を含めた果実(川穀<センコク>)。10-11月に完熟した果実を苞鞘をつけたまま採取し、日干しにする。【成分】脂肪酸のエステルであるコイキセノライドのほか、シス-8-オクタデセン酸、タンパク質、脂肪などが含まれる。【薬効】消炎、利尿、鎮痛、水腫などに用いる。【用法】生薬10-30gを碎き、水400mlで煎じ、煎汁を服用する。【その他】生薬の薏苡仁<ヨクイニン>の基原植物としてはハトムギ(中国名：川穀) *Coix lacryma-jobi* L. var. *ma-yuen* (Roman) Stapfがあり、それぞれの植物の中国名と生薬名とが入れ違っているため注意が必要。中国では本植物の根を川穀根<センコクコン>と呼び、神経痛、関節リウマチ、肩こりなどの鎮痛薬、あるいは鎮咳薬、駆虫薬などにも利用するといわれている。なおジュズダマの異名にはスズコ、スズダマ、トウムギ、ツシダマなどがある。